

# ビジネスゲームで学ぶ DX改革リーダー養成研修

あなたの会社に必要なDX改革リーダーとは？

企業の経営幹部の多くの方々は、デジタルトランスフォーメーションの実現と、会社の将来の成長・競争力強化に向けて業務改善・効率化・IT活用などの必要性について理解しておられますが、実際の企業内にこれらのテーマを推進することが可能なリーダー・担当者をアサインできないことが多く、テーマ推進が滞りがちです。

改革リーダー育成を目的とした各種の研修・セミナーは多数ありますが、大半が講義形式の座学が中心となっているのが現状です。実際に改革の現場で力を発揮できるような実践的なスキルアップに繋げるのは容易なことではありません。

## システムズだからできること

ITの現場でシステム開発保守運用やマイグレーションビジネスを通じて、長くお客様の現場課題に直面してきたシステムズはコンサルティングを始めとしたバンダーサイドのソリューションメニューだけでは、お客様の自社ITの現状整理、課題の発見そして解決に至るまで、どうしても時間とコストがかかることが懸念事項でした。どうしたらお客様サイドのご担当者と一緒に課題解決に向かって改革を考えたのできるのか、これにはゲームを通じて実際に「気づき」「学び」を疑似体験することが実は近道だという結論に至り、実際の試行サービスを経たうえで研修メニューとして、このソリューションをご用意しました。

## 体験型研修「ビジネスゲームシミュレーション」 ビジネスの現場から課題抽出・解決に向けた方法論を疑似体験

### ●講義だけの研修では身につかない「疑似体験型」研修により、自社課題への気づきを誘導

参加企業各社混成のチーム編成（4,5名）による体験型研修により「異業種交流」の場としての副次的効果も期待できます。

### ●DX改革リーダーの養成に効果的なビジネスゲーム体験は3種類

#### ①IT業務理解 ビジネスシミュレーション

受注から納品、売上傳票入力、在庫管理並びに発注、入庫、仕入伝票入力まで一連の業務を体験します。

#### ②要件定義 ビジネスシミュレーション

SEチームを組み、消費者向けビジネスを営む顧客企業を支援します。様々な課題に対して業務ヒアリングを行い、適切な業務支援・IT導入を実施することで、顧客企業のビジネスを成功へ導きます。

#### ③企業理解 ビジネスシミュレーション

他のチームは同じ業界に属するライバル企業です。最初にチーム内で自社の企業理念を設定し、利益の最大化を目指します。



実際の物品納入をシミュレート



試行バージョンの研修プログラム「IT業務理解」実施時の一コマ  
各企業様から派遣された方々が異業種でチームを組んで実施します。

開催日程：  
2020年1月より順次開講予定

研修費用：  
お問い合わせください。  
企業様からの複数名での参加ならびに  
出張研修も承ります。

お問い合わせはこちらまで・・・



# 「ビジネスゲームシミュレーション」 各プログラムのご紹介

システムズのビジネスゲームシミュレーションは、下記の3つのプログラムをご用意しています。単体での受講も可能ですが、3つのプログラムを体験することで、より体系的に「改革リーダー」要請に必要なスキルが身につきます。各プログラムともに、導入・実体験・振り返りの所要時間は半日（4 - 5時間）程度です。

## ① IT業務理解ビジネスシミュレーション

<p><b>① 担当決定</b></p> <p>チーム内で受注責任者・出荷責任者・発注責任者・入荷責任者を決定し、業務手順を理解します。</p> <p><b>学びポイント</b> 顧客の業務内容理解</p>	<p><b>② 業務遂行</b></p> <p>チームメンバーは受注・発注・出荷・入荷の業務をそれぞれ担当し、ミスなく在庫の管理や納品・仕入、また伝票入力を行うことが目標です。</p> <p><b>学びポイント</b> 正確で迅速な業務遂行の難しさ イレギュラー対応の難しさ</p>
<p><b>③ 業務評価</b></p> <p>他チームの納品・在庫・伝票をチェックします。ミスがマイナス点となります。処理量の多さやイレギュラー対応がミスにつながることを体験します。</p> <p><b>学びポイント</b> ミスなく業務遂行するための業務改善視点の獲得</p>	<p><b>④ IT理解</b></p> <p>シミュレーションで扱う10品目10取引先でさえミスが発生することで、ITによる業務効率化の効力やリアルタイム業務レポートによる分析の重要性が再確認できます。</p> <p><b>学びポイント</b> ITによる正確・迅速な業務処理支援及びリアルタイム経営レポート出力の重要性</p>

### 【現場視点+経営視点】を学びます

- ①各部門に分かれ、多種多様な伝票作成の作業を処理を実際に毎日を想定して行います。
- ②処理量の多さやイレギュラー対応がミスにつながることを体感し、その上でITシステム導入に業務効率化への貢献を実感します。
- ③振り返りにおいては情報化されたデータの活用の観点としての業績レポート（顧客別・商品別利益率など）を通じ、現場視点に加えて経営視点からビジネスを俯瞰することの重要性を学びます。

## ② 要件定義ビジネスシミュレーション

<p><b>① 状況確認</b></p> <p>顧客企業を取り巻く消費者や競合企業の状況、また現在のシステム環境など、詳細に顧客企業の状況を確認していきます。</p> <p><b>学びポイント</b> 顧客の業界・業務を理解することの重要性</p>	<p><b>② 業務ヒアリング</b></p> <p>経営者、現場の店長、システム部門に様々な質問で業務ヒアリングを行っていきます。適切なヒアリングを行うと、必要な情報が集まります。</p> <p><b>学びポイント</b> 顧客の問題や要望を把握し、解決策を見つけ出すことの重要性</p>
<p><b>③ 意思決定</b></p> <p>複数の要望に対し、人員・予算は限られているため、今期どのような意思決定を行うか慎重に意思決定する必要があります。</p> <p><b>学びポイント</b> 適切な解決策を、プロジェクトを管理し、実現することの重要性</p>	<p><b>④ 結果</b></p> <p>意思決定の結果、顧客企業のサービス水準が向上します。どれだけ顧客企業の成長に貢献できたかで優勝チームが決定されます。</p> <p><b>学びポイント</b> システムで顧客の競争力を強化し、成長に貢献することの重要性</p>

### 【部門視点】を学びます

- ①経営層・現場・システム部門の各課題をヒアリングした結果をまとめます。
- ②まとめた結果より、情報化の優先順位と要件を整理します。
- ③これにより、ITシステムの導入による経営効果までを学びます。

## ③ 企業理解ビジネスシミュレーション

<p><b>① 自社の企業理念設定</b></p> <p>社員の行動指針として企業理念を設定します。シミュレーションでは設定された企業理念に沿って製品の開発・製造・販売を行います。</p> <p><b>学びポイント</b> 企業・社員の行動指針としての企業理念の重要性</p>	<p><b>② 製品の開発・仕入・製造・販売</b></p> <p>チーム内で研究開発・原料仕入・生産・営業の担当者を決定します。</p> <p><b>学びポイント</b> 損益計算書の仕組み</p>
<p><b>③ 損益計算</b></p> <p>各期の行動の結果、どれだけの利益を得ることができたのか、損益計算書に数値を記入して計算します。</p> <p><b>学びポイント</b> 製造業の業務はチームワークである</p>	<p><b>④ 品質管理</b></p> <p>第3期の決算後、リコールが発生し、低品質な製品をしていた企業は売上を没収されてしまいます。</p> <p><b>学びポイント</b> 製造業における品質管理の重要性</p>

### 【経営視点】を学びます

- 某製造メーカーをモデルにします。
- ①開発、調達、製造、営業の各部門の機能を理解します。
- ②適正なリソース（人員）の配分を行います。
- ③自社の強みを考慮した市場選択を行い収益最大化を目指します。
- ④これにより、企業全体を俯瞰できるような経営者視点を学びます。

本研修プログラムは、株式会社創作のビジネスゲームパッケージをもとに株式会社システムズが株式会社創作と企画・運営するものです。